

## 種目【道徳科】

<div style="text-align: right;">書名</div> <div style="text-align: left;">項目</div>	<h1 style="margin: 0;">新しい道徳</h1>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2 東書</span>
内 容	<p><b>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○初めに、1気づく、2考える・話し合う 3 振り返る・見つめる 4生かす、といった自己を見つめ、物事を多面的多角的に考え、自己の生き方について考えるための学習の流れをつかむためのページがある。</li> <li>○読み物教材だけでなく、イラストや写真から議論を深められるような活動型教材がある。</li> <li>○教材の冒頭に主題名が記載されている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○メディアで有名な人物が多く取り上げられ、児童の興味・関心を高めている。</li> <li>○「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げている。いじめを題材として扱った直接的教材と、問題を提起する間接的教材を1つのユニットとして組み合わせることで、いじめ防止の効果を高めている。</li> <li>○「情報モラル」を扱った教材を全学年に配置し、発達段階に応じて段階的に指導ができるように工夫している。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な生活場面（低学年）から様々な場面へと、各学年の発達段階に応じた教材となっている。</li> <li>○各学年で特に重要だと考えられる内容項目を「重要指導内容」とし、繰り返し指導し学習を深められるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の終わりに「考えよう」が記載され、考えたり議論したりする観点があり、学習の流れが作られている。</li> <li>○低学年には教材の冒頭にキャラクターの吹き出しで考えるポイントを示している。中学年以降では、最後に「考えるステップ」を示し、話し合いの道筋を示している。</li> <li>○「活動型教材」があり、児童の多様な考えを引き出し議論できるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目次に内容項目別一覧があり、価値項目がひとめでわかる。</li> <li>○タイトルが価値項目ごとに色分けされている。</li> <li>○漫画形式のものやイラスト、写真など様々な資料を活用した工夫がある。</li> <li>○Dマークなど、インターネットを活用して教材に関連した動画も見られる。</li> <li>○絵本作家のなじみの絵が多く、児童の興味を引き付ける。</li> <li>○巻末に毎時間の学習を振り返り自己評価できるページがある。また、学期ごとに振り返りシートがあり、児童が定期的に振り返れるようになっている。</li> </ul>	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昔からある読み物資料が、今風のイラストで仕上げられている。</li> <li>○どの学年も最後に児童の「学習の記録」や色塗りがある。</li> <li>○教材のタイトルに4つの視点のマークと学習のテーマを掲載している。目次のページが視点、内容項目別になっており、1年間の見通しがもてる。</li> <li>○教材名が太字で大きく表示されていて見やすい。</li> <li>○B5ワイドサイズ。そのため、文字がやや小さい。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今風のイラストや写真・人物が取り上げられており、児童の興味をひく教材が多い。</li> <li>○キャラクターによる吹き出しや「考えよう」などの学習の手引は、発達段階に応じて表示のしかたを工夫している。</li> <li>○「出会う・ふれ合う」を設け、コミュニケーション活動を通して、道徳的価値について考えることができるように工夫されている。</li> <li>○Dマークの教材はQRコードを読み取ることで、教材内容と関連する動画を見ることができ、理解を深めることができるので効果的である。</li> </ul>	

## 種目【道徳科】

書名 項目	かがやけ みらい 小学校 道徳 きづき かがやけ みらい 小学校 道徳 まなび	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">11 学図</div>
内 容	<p><b>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <p>○「きづき」と「まなび」の二部構成となっている。「きづき」では、教材の中で道徳的課題に気付き、「まなび」では、内容項目別に記述できるようになっており、その内容を振り返ったり学びを深めたりできる。「自分の考え」と「友達の考え」を記述することで、友達との対話を通して学びを深められるようになっている。</p> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <p>○昔からなじみのある教材が、現代風にアレンジされている。「すれ違い」→ラインの画面等。</p> <p>○「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げ、複数配置している。 「ともにいきる」マークの教材を計画的に配列し、繰り返し多角的にいじめについて考え、学びを深められるよう工夫している。</p> <p>○「情報モラル」を扱った教材を全学年に配置し、発達段階に応じて段階的に指導ができるように工夫している。</p> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <p>○児童が関心を向けやすい、漫画家やオリンピック選手などに関する教材が多く配置されている。</p> <p>○漫画となっている教材もあり、児童が読みやすく学べるようになっている。</p> <p>○内容項目の4つの観点を児童の生活実態や体験活動に合わせて、バランスよく教材を配列している。</p> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○「きづき」には本文に内容項目、主題、発問がないため、児童自らが問題に気付くことを大切に構成になっている。</p> <p>○「まなび」の「やってみよう」では、役割演技を行うことにより、道徳的価値について主体的に取り組めるような表現活動が示されている。また、「自分の考え」「友達の考え」を記入する欄があり、友達の意見と比較しながら自己の考えを深めることができる。</p>	
資 料	<p>○写真や絵から課題を見出す教材、漫画形式の教材、身近な話題の教材など、さまざまな教材を配置している。</p> <p>○絵や写真が多く（特に低学年）見やすい。</p> <p>○全ての教材にQRコードがあり、主題名と登場人物が資料として活用できる。</p>	
表 記 表 現	<p>○挿絵に水彩画が多く使われ、全体的に優しい感じがする。</p> <p>○縦が短く、横に広い本の大きさになっている。高学年でも多くの資料が見開き2ページで編集され見やすい。</p> <p>○高学年でも文字がやや大きく見やすい。</p> <p>○学年配当漢字については、全てふりがなをつけ、「読む」ことへの負担の軽減を図っている。</p> <p>○B5で幅広の製本となっている。教材が見開きで始まるように工夫されている。</p>	
総 括	<p>○教材で考える「きづき」と道徳ノートの役割の「まなび」の二冊併用が特徴的である。</p> <p>○「きづき」には主題等がないため、教師の創意工夫が図りやすい。「まなび」は内容項目ごとにまとめられるようになっており、児童自身の考えの深まりを見取ることができる。</p>	

## 種目【道徳科】

書名 項目	小学道徳 はばたこう明日へ	17 教出
内 容	<p><b>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○初めに、気づく、考える、深める、つなげる、といった学習の流れをつかむためのページがある。</li> <li>○教材の冒頭にキャラクターによる問いかけの文章があり、学習のねらいを明確にしている。最後に「考えよう」「深めよう」という学びの手引きがあり、考え・議論しながら道徳的価値についての学びを深められる発問となっている。</li> <li>○教材の文末の学びの手引きに「やってみよう」「つなげよう」の項目があり、教材をより深めたり教材を通して考えたことを実践する意欲を高めたりしている。</li> <li>○内容項目でまとめた教材配列となっており、道徳的価値をより多面的・多角的に考えることができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ問題や情報モラル、国際社会に関する学習が取り上げられている。</li> <li>○「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げている。直接的な教材だけでなく集団や社会との関わりを考える教材でも間接的に扱い、さまざまな場面から考えを深めていけるようになっている。</li> <li>○全学年で「命」や「情報モラル」を取り上げ、詩やイラスト、写真など発達段階に応じた多様な教材で考えられるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の発達段階を踏まえて、大切にしたい内容項目の教材を「特に大切なこと」と設定してある。</li> <li>○発達段階に応じて取り上げる教材のタイプを工夫している。(物語教材→生活場面→人物の生き方)</li> <li>○学習時期と教材内容の季節が一致するよう、教材が灑配列されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年に「やってみよう」でモラルスキルトレーニングの教材があり、具体的な行動について体験しながら道徳的価値を学べるようになっている。</li> <li>○一部の教材で拡大導入のページが設けられており、児童自身が道徳的課題に気付き積極的に学習に取り組めるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マスコミや他教科で取り上げられる人物の話が多く、児童の興味を高めている。</li> <li>○巻末に補充教材がある。</li> <li>○内容項目ごとにまとめた配列になっている。</li> <li>○道徳教育の中で長く読み継がれてきた定番教材が数多く掲載されている。</li> <li>○巻末に、「学びの記録」のページがあり、毎時間・学期ごと・一年間の振り返りができるようになっている。また、家庭との連携も図ることができる。</li> </ul>	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニバーサルデザインをうたっている。(色・デザイン)</li> <li>○目次のマークで、自分のことなどの価値項目がわかりやすい。</li> <li>○行間が広く、見やすい。場面ごとに改行してあり分かりやすい。</li> <li>○内容項目や主題がやわらかい色で色分けされている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発問が登場人物の心情に沿っているものが多い。</li> <li>○まなびリンクがあり、直接ではなく、他社のHPにとぶ。数は多く、教材として活用できそうである。</li> <li>○B5サイズでコンパクトである。教材を見開き2ページで収めようと工夫されている。</li> <li>○同じ内容項目の教材が複数続いた配列が特徴的である。</li> <li>○「導入」で、価値に迫るような問いかけをしたり、「考えよう」で主発問や振り返りの発問が提示されたりしていて、授業の流れが明確化されている。</li> </ul>	

## 種目【道徳科】

書名 項目	<b>道徳 きみがいちばんひかるとき</b>	38 光村
内 容	<p><b>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の冒頭に、キャラクターによる呼びかけがあり、導入の役割をしている。教材末には「考えよう・話し合おう」という手引きがあり、道徳的価値の理解や自覚を深めたり自分に引き付けて考えるために話し合ったりするなどの発問がかけられている。</li> <li>○「つなげよう」では、教材を通して学んだことを自分の生き方に生かすような問いかけがあり、道徳的実践意欲や態度を育成させるような工夫がある。</li> <li>○全学年を通して、考え、話し合う観点が設けられ、道徳的価値の理解を深め、自分自身の生き方や生活につなげていけるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ問題」「情報モラル」を全学年で扱い、「呼びかけ→教材→コラム」のユニットで課題にじっくり向き合えるようにしている。</li> <li>○1年を通していじめと関連の深い教材を配置し、児童がいじめを意識し続けることができるようにしてある。</li> <li>○「生命の尊さ」を重点項目とし、命をテーマとした教材が全学年3つずつ配置付けられている。</li> <li>○「情報モラル」や「人権」は、権利を数多く掲載している。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間を3つのまとまりに分け、さらにまとまりごとに小さなテーマを設けた教材配列にすることで、ステップを踏みながら考えを深めることができるようになっている。</li> <li>○内容項目が各学年で網羅されており、各教材がどこに対応するかは教材冒頭のマークと主題で示されている。</li> <li>○低学年では、家族や学校生活など身近な教材が多く、主人公に寄り添って考えやすい内容になっている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が話し合えるような話し方のスキルやソーシャルスキルのページが設けられている。</li> <li>○児童の多様な考えを引き出すため、教材の文章をすっきりとさせている。</li> <li>○教材の最後に、「考えよう・話し合おう」といった話し合いの観点が設けられている。「つなげよう」では、さらに考えを深める工夫がされている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語の教科書と感じが似ている。</li> <li>○有名な絵本作家の絵など、子供を引き付けるようなイラストが多い。</li> <li>○写真、校歌、漫画など、様々な種類の教材がある。特に写真は折り込んだページを開くことができるようになっているものもあり、迫力ある画像で児童を引き付けるのに効果的。</li> <li>○「つなげよう」にQRコードがあり、朗読や動画が見られ、資料に関連したWebサイトに直接とべるようになっている。教材の理解を深めるのに役立つ。</li> <li>○「学びの記録」のページがあり、簡単な感想を毎時間記録することができる。</li> </ul>	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○色覚の特性にも対応できる表記（ルビや配色、表示）などがされている。</li> <li>○文字は他社よりも小さめだが、やや濃くて見やすい。</li> <li>○注釈で難解な語や必要な情報が解説されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B5サイズのため、教材が数ページにまたがることが多い。また、一つのページを上下に分けてあるものもあり、児童によっては抵抗を感じる。</li> <li>○冒頭の主題名や主体的に学ぶ手引きが示されたりしており、順序だてて授業を組み立てられるように配慮されている。</li> <li>○見開きでインパクトがある教材が多いが、心情の読み取りが特活や国語的なものが多い。</li> </ul>	

## 種目【道徳科】

書名 項目	小学道徳 生きる力 道徳ノート	116 日文
内 容	<p><b>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入で学習の目的をつかんで、「考えてみよう」「見つめよう生かそう」を活用して道徳的価値の理解や道徳的実践意欲と態度を育成できるよう工夫している。</li> <li>○道徳ノートが別冊でついている。自由に記述できる欄があり、児童が自分の考えを整理したり、友達の意見や話合いの内容をメモしたりすることで、自分の考えがより深められるように工夫してある。</li> <li>○気づき、考えを深めるために、教材のはじめに導入の発問例や、最後にはねらいにせまるための発問例が記載されている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げている。学期に1回、年間3回、それぞれ「直接的教材・間接的教材・防止に関するコラム」を一つのユニットとして配置している。</li> <li>○「情報活用能力の育成」「情報モラルの習得」を重視している。低学年は情報の意味や影響を考えさせる教材、中学年以降で通信機器に関わった教材が配置されるなど、発達段階に応じた配慮がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭に「どうとくのとびら」の欄があり、4つの大きな項目に分けて学習する教材や内容項目をまとめている。</li> <li>○1年生の教科書の目次は、イラストや写真で示してあり、興味・関心を高められるようになっている。</li> <li>○小1プロブレム解消の具体策で、特に1年生のオリエンが丁寧でわかりやすい。</li> <li>○先人の伝記やスポーツ選手に関わる教材を取り上げ、多様な生き方が紹介されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「心のベンチ」というページが全学年様々な場所に配置されている。道徳的価値をより深く、多面的・多角的に考えを広げ深められるようになっている。</li> <li>○道徳ノートを併用することで言語活動が充実し、多面的・多角的に考え、議論する授業が実現しやすい。記述するスペースもマス、行など発達段階に応じたものとなっており、工夫されている。</li> <li>○学びを活発にするために、学習の手引きがあり、授業の流れが見えやすい。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年複数の教材で「教科書デジタルコンテンツ」があり、教材に関連した動画や画像をWebサイト上で閲覧することができ、学習を深めることができる。</li> <li>○高学年もイラストや写真が多く、読みやすい。</li> <li>○教材最後の「見つめよう・生かそう」で考えるべき視点が見えている。</li> <li>○登場人物が教材のはじめに出ていて状況がわかりやすい。</li> </ul>	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材の冒頭に条件・状況が記載されており、資料渡しがしやすい。</li> <li>○難しい言葉には、注釈があり、児童の教材の理解を助けている。</li> <li>○タイトルの前に主題が記載されている。</li> <li>○電子黒板・道徳ノートの紙面データなど、デジタル教材も充実している。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「道徳ノート」が工夫されており、様々な活用方法が考えられる。フリースペースが使いやすい。学びを積み重ねることができる。</li> <li>○導入で資料渡しがしやすいよう、登場人物の顔やあらすじを示し、見通しがもてるように工夫されている。</li> </ul>	

## 種目【道徳科】

書名 項目	小学道徳 ゆたかな心	208 光文
内 容	<p><b>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <p>○主題と教材を通して考えたいことが、冒頭に示してある。また、余白にキャラクターによるつぶやきが記載されており、考えるポイントや大切な見方を示している。流れが明記してあるため授業展開しやすい。</p> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <p>○「情報モラル」を全学年で扱っている。身近な教材やコラムをセットで配列し理解を深められるようになっている。</p> <p>○「いじめ問題」を全学年で扱い、直接的・間接的にいじめについて児童自身の問題としてとらえられるように教材を選定している。また、親しみやすいアニメキャラクターを採用している。</p> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <p>○オリエンテーションのページが多く充実している。全学年同じ内容である。</p> <p>○各学年で特に考えたいこと（重点項目）を設定し、2～3時間続きのユニット教材として配列してある。複数の教材を通して価値に深く迫れるように工夫している。</p> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○教材の末尾に「まとめる」「ひろげる」の文言が記載してあり、自分の生き方を見つめられるようになっている。「～しましょう。」など決意表明のような文言が多い。</p> <p>○教材の中に、考えたり振り返ったりするポイントを示すことで主体的に考えを深められるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○教科書の巻末に毎時間の振り返りのページを掲載している。1時間→1学期→学年末と評価できる。</p> <p>○オリジナルの教材が多い。人物の生き方から学ぶ教材や実話に基づく教材、漫画やアニメの教材など、様々な教材が配置されている。</p> <p>○人が関わり合う資料では、はじめに登場人物のイラストが記載され、読みの理解の手助けをしている。</p> <p>○長年使われてきた資料が、「ふろく」として掲載されている。</p> <p>○「みんなでやってみよう」では、ソーシャルスキルトレーニングの内容が掲載されている。</p> <p>○巻末に「学びの足あと」についており、授業の記録ができるがスペースが設けてある。</p>	
表 記 表 現	<p>○一部の物語では、教材の冒頭に登場人物の絵が記載されており、資料渡しがしやすい。</p> <p>○難しい言葉には、余白に注釈があり、児童の教材の理解を助けている。</p> <p>○絵がさっぱりしており（漫画チックで軽い。人物の動きが分かりづらい。）</p> <p>また、包丁の絵など、一部道徳の教科書として不適切と感じられるものもある。</p> <p>○教材は縦書きだが、余白のキャラクターの言葉は横書きで表記されている。</p> <p>○教材名の前に内容項目の4つの視点をマークと色で表し、主題を明記している。</p>	
総 括	<p>○教材の冒頭や教材末、キャラクターなどの文言が多く記載されており、授業を進める手助けとなっている。</p> <p>○デジタル教科書やデジタル教材が充実している。朗読や関連した動画、心情円盤なども映像や音を活用し、児童がより理解を深められるように工夫してある。</p>	

## 種目【道徳科】

書名 項目	<h1>新・みんなの道徳</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">224 学研</div>
内 容	<p><b>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の学び方を紹介するページから始まっていて、オリエンテーションとして使いやすい。</li> <li>○特定の価値観を押し付けず、児童の問題意識を大切にするため、冒頭に教材の主題名を記載していない。児童自らが課題に気付くことを大切にした構成になっている。</li> <li>○文末に「考えよう」があり、考えを深める手立てがある。文言も、「大切にしたいものは何だろう。」「これまでに～したことはあるか。」など、自分に戻る問いかけになっており、工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いのちの教育」を最重点テーマとしており、全学年で「生命の尊さ」の教材を3点配列している。</li> <li>○全学年で「いのち」と「ともにいきる」というユニット教材があり、さまざまな内容項目から広い視野に立って学習することができる。</li> <li>○「情報モラル」を全学年で扱っている。内容も発達段階に即したものとなっている。</li> <li>○いじめ防止につながる教材が充実している。役割演技を通して考えるものなどもあり、他者とよりよく生きることについて多面的・多角的に考えられるように配置してある。</li> </ul> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭に自分のことを書くページ、巻末に1年間の学習の振り返りのページがあり、1年間の自分の成長を感じることができる。</li> <li>○オリエンテーションのページが発達段階に合わせて分かりやすく示されている。</li> <li>○重点テーマを「いのちの教育」として、全学年で発達段階に応じた教材を複数配置し、様々な観点から学べるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」という学び方の特設ページがあり、物事を多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。</li> <li>○「考えよう」では、教材の中の視点と、自分を振り返るものの2つが挙げられている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○QRコードがあり、資料に関する画像や動画が見られたり、音声を聞けたりすることができる。教材の理解を深めるのに役立つ。</li> <li>○教材が見開きで始まるように工夫されている。写真や漫画、絵など様々な資料がある。絵や写真が美しい。</li> <li>○昔からの教材と新しい教材がバランスよく取り上げられている。</li> </ul>	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材名が太く大きい。インパクトがある。</li> <li>○難しい言葉には、余白に注釈があり、児童の教材の理解を助けている。</li> <li>○A4サイズ。見開き2ページで収まるようになっている。</li> <li>○児童が分かりやすい表現で書かれている。余計な心情表現等がなく、児童が様々な考えを出せるよう工夫されている。</li> <li>○教材のタイトルに4つの視点のマークと学習のテーマを掲載している。目次のページが視点、内容項目別になっており、1年間の見通しがもてる。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「あすか」と「みらい」という二人のオリジナルキャラクターが1年生から6年生まで登場し、ともに成長していくよう設定されている。</li> <li>○主題名を設定せず、導入の問いかけの文もないので、児童が自ら課題を見出し話し合えるようになっている。授業をする上で使いやすい。</li> <li>○絵や写真が充実しており、児童の目線に立った資料である。児童が安心して、また、興味関心をもって取り組むことができる。</li> <li>○授業スタイルの提示がないので、教師が創意工夫して授業を考えることができる。</li> </ul>	

## 種目【道徳科】

書名 項目	みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ、考える 道徳ノート	232 廣あかつき
内 容	<p><b>&lt;道徳科の目標に関わる工夫&gt;</b></p> <p>○教材をもとに考える「どうとく」と、書くことを通して自分を見つめることができる「ノート」の2冊となっており、併用することで道徳的価値をより深く理解できるようになっている。</p> <p><b>&lt;現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫&gt;</b></p> <p>○「いじめ問題」を全学年で取り上げている。</p> <p>○全学年共通の重点項目が設定されており、2時間連続で配置する「ユニット」にすることで指導の重点化を図るよう工夫されている。</p> <p>○「情報モラル」については、考えさせるというよりは知識を伝えるものが多い。</p> <p><b>&lt;発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫&gt;</b></p> <p>○冒頭（教材タイトル脇）に導入に役立つ文言が記載されている。低学年では内容項目が記載されているが、中・高学年では児童が先読みしないよう、内容項目に触れないものもあり工夫されている。</p> <p>○2年生以降の学年にオリエンテーションのページがあり、発達段階に応じて分かりやすい表現で道徳の学習のイメージを示してある。しかし、文字のみでさっぱりしている。</p> <p>○いじめに関する教材について、1～4年生では、直接的ではなく慎重に取り扱っている。</p> <p><b>&lt;「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○教材文の文末に「考えよう・話し合おう」を配置し、考えたり話し合ったりする視点や道筋を示している。しかし、「学習の道すじ」はねらいそのものが表記されている。</p> <p>○別冊のノートは、内容項目別に自分を見つめ振り返るページと、授業ごとの「学習の記録」、「話し合い活動の記録」「体験活動の記録」「心に残っている授業の記録」のページと、さまざまな項目がある。</p>	
資 料	<p>○伝記や様々なジャンルで活躍する著名人など、人物教材が豊かである。</p> <p>○ノートとセットなので、厚さがある。</p> <p>○「考えよう・話し合おう」の中に「学習を広げる」を設け、道徳的価値についての考えが深められるように「工夫されている。</p> <p>○インターネットマークがある教材は、ホームページで関連する情報を見ることができる。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○文字が小さい。教材名も小さく細く感じる。</p> <p>○難しい言葉には、余白に注釈があり、児童の教材の理解を助けている。</p> <p>○イラストのタッチが柔らかく、さっぱりとしている。</p> <p>○B5サイズ（AB版）</p>	
総 括	<p>○別冊のノートは同じ内容項目でまとまるように工夫されており、上手く活用することで道徳的価値をより深められるようになっている。</p> <p>○実際に起こった話や、名言などが多く取り上げられ、生き方の参考にできるようになっている。</p> <p>○学習の「道すじ」があり、話し合いがしやすくなっている。</p>	